布教の家

入寮生募集

この道を行こう



立教190年度入寮案内

ひながたを実践しよう



喜びを実感しよう

全国15カ所の布教の家。

寮生の年齢や立場はさまざまです。親からの信仰を受け継ぎ代を重ねた人もいれば、自ら信仰の道に入った初代の人もいます。

布教経験に関しては、ある程度慣れた人もいますが、ほとんど経験がない人も多くいます。これまで経験のない人も、布教の家での布教専従の1年間を通して、親神様のお働きを実感していくのです。布教の家は、むしろ布教経験のない人や布教に自信のない人にこそ入寮を志してもらいたい所なのです。「3カ月も歩けば、入寮前の自分がどれだけ頭でっかちだったか思い知らされる」と多くの寮生が話します。

雨の日も風の日も布教に明け暮れし、正面から親神様と向き合ってこそ、尊い喜びを味わうことができるのです。

心の精神の理によって働かそう。精神一つの理によって、一人万人に向かう。神は心に乗りて働く。心さえしっかりすれば、神が自由自在に心に乗りて働く程に。

（明治三十一年十月二日）

目　次

●ひながたを実践しよう　喜びを実感しよう …… 1
●全国の布教寮 …… 3
●布教の家寮生の声 …… 4
●布教の家とは …… 6
●さあ！　布教の家へ
　布教の家の一年間
　　①「入寮研修会」でぢばの理を頂いて …… 8
　　②布教の家の一日 …… 9
　　③布教経験豊かな　育成員の指導 …… 10
　　④団参を通して　さらなる感謝と自覚 …… 11
　　⑤おぢばを目指し　さらなる成人を …… 12
　　⑥布教の家を土台に　新たな布教活動へ …… 13
●布教の家寮生　生活規則 …… 14
●各寮の紹介

北海道 ……	15	大　阪 ……	22
青　森 ……	16	和歌山 ……	23
東　京 ……	17	兵　庫 ……	24
埼　玉 ……	18	岡　山 ……	25
千　葉 ……	19	広　島 ……	26
愛　知 ……	20	愛　媛 ……	27
石　川 ……	21	福　岡 ……	28

※立教190年度は、徳島寮の入寮生募集はありません。
●布教の家　所在地一覧 …… 29
●立教190年度 布教の家　入寮要項 …… 30

全国の布教寮

男子寮12カ所・女子寮３カ所



※（　）内は定員数

布教の家

帰参の約束がだめになったことで理づくりの大切さを学んだ

おぢば帰りの約束をしてくださっていた方が二人おられたのですが、二人ともお連れできなくなってしまいました。

お一人は生活保護を受けている男性で、出会った日に帰参の約束をしてくださったのですが、弟さんに猛反対され警察まで呼ばれて、帰参は断念しました。

もうお一人の男性は別席や修養科までも前向きに考えておられ、「あなたに出会うために今まで生きてきた」とまで言ってくださっていたのですが、やはり周囲の方に猛反対されて、「もう二度と来ないでくれ」とまで言われてしまいました。

なぜこうもうまくいかないのかと悩み、いろいろ思案したところ、一人一人に対して理づくりができていなかったのだと気づきました。御守護を頂くにはそれだけの筋道をつくらなければいけないなと思いました。親神様にお働きいただけるよう、理づくりにも頑張ります。

（岡山寮　男性）





寮生の声

欲を離れ、親神様にもたれてこそ お働きをお見せいただける

入寮して三カ月が過ぎ、別席者をお与えいただきたい一心で日々にをいがけに奔走しているものの、なかなかうまくいかない日が続きました。そんな中、結果を求める心をいったん忘れて、ただ理を求めて歩かせていただこうと心を定めたところ、一緒におぢばへ帰ってくださる約束を二件お与えいただきました。このことを通して、欲を離れ、親神様にもたれて通らせていただく時にこそ、お働きをお見せいただけるのだと、あらためて感じさせていただきました。

そして、おぢばへお連れする日までに私に何ができるのかを寮長先生にお尋ねしたところ、「理を立てて、成ってくる理をつくらないと、理は立たない」と教えていただきました。

日々の心遣いや通り方の一つ一つが、おたすけへとつながる理になるということを忘れず、自分の都合や我が身かわいい心を少しでも治めて、おたすけ心第一で通らせていただきます。（兵庫寮　女性）





布教の家とは

決して練習所でも研修所でもありません。
ひたすらにをいがけ・おたすけを実践する場です。

●全国に15カ所の布教の家

布教の家は、布教を志す者が実際ににをいがけ・おたすけに明け暮れる場です。ただ歩くだけではなく、そこに喜びの心を持てるよう、歩きながら自らの信仰を見つめ直す場でもあります。

現在、布教の家は北海道から九州まで、全国に男子寮12カ所、女子寮３カ所が設置されています。

●まず布教師がいて　布教の家ができた

布教の家の設立は、今から70年以上前にさかのぼります。

当時、戦後の厳しい生活難の中、お道の布教師は野宿のような状況で布教をしていました。そんな状況の下、教区の好意により、単独布教師に教務支庁舎の一部が提供され、布教師は定住地を御守護いただくまでそこを拠点として布教に歩いたのです。それが布教の家の始まりです。

つまり、布教の家を設立してから布教師を育てたのではなく、まず布教師がいて、布教の家ができたのです。

●まさに布教実践の場

このような成り立ちからも分かるように、布教の家は決して布教の練習所や研修所ではありません。ひたすら、にをいがけ・おたすけを実践する場です。育ててもらう所ではなく、自らが布教師として育つ所なのです。

たすけ一条の歩みこそがようぼくの使命。教祖のひながたを万分の一でもたどらせていただこう。その決意と情熱を胸に１年間懸命に、にをいがけ・おたすけに励む。それが布教の家です。ただ、身構える必要はありません。教祖のひながたは誰もが通ることのできる万人のひながたなのですから。

●経験豊かな指導者と良き仲間の中で

毎日の布教道中は、晴天の日ばかりではありません。そんなとき支えとなってくれるのが、寝食を共にする仲間です。また仲間は良きライバルでもあり、互いに切磋琢磨する砥石（といし）でもあります。

また各寮には、寮長はじめ育成員がいます。教区管内の布教経験豊かな方々がその任に当たり、さまざまなアドバイスをしてくださいます。

各寮には、長年続いてきた寮のカラーがあります。もちろん地域的な特色もありますが、どの寮も、教祖のひながたを求めて素直に神恩感謝のにをいがけ・おたすけを実践するために、寮生たちと正面から向き合って取り組んでいます。

●生涯の宝として

布教の家での１年間は、それぞれの教会の御用や私事から離れて、完全に布教に没頭する毎日を送ります。だからこそ素直に真っすぐひながたを通る基盤がつくられ、生涯の布教生活の心を定める貴重な仕切りの１年となるのです。この１年間に味わうさまざまな経験は、かけがえのない心の宝になるでしょう。

寮生の中には、卒寮後も現地に残り、布教を続ける人も少なくありません。

●思い切って布教に出よう

私たちようぼくは、定命を25年縮めて現身をお隠しになられてまで世界たすけをお急き込みくだされた教祖の思召に、何としてもお応えしなければなりません。私たちが歩む道は、たすけ一条の道あるのみです。そのために教祖はひながたをお示しになり、道の先頭に立ってお導きくだされています。

しかしながら、頭では分かっていても、日常の生活に追われてなかなか思い切って布教に徹することができない自分がいませんか。

だからこそ、思い切って布教に出ましょう。この１年を仕切って、まずは布教の家に飛び込んでください。

さあ！ 布教の家へ

1 「入寮研修会」でぢばの理を頂いて

布教の家に入寮する前に、おぢばで「入寮面接会」や「入寮研修会」を受けます。

「入寮面接会」では、各寮の寮長はじめ育成員が出席し、入寮希望者本人とその保護者に対して面接が行われます。「これから布教一筋に通るのだ」という意志の確認と入寮までの心づくりをするのです。

入寮が決定し、各布教の家へ出発する直前には「入寮研修会」が行われます。布教経験豊かな先輩のお話を聞いて単独布教師としての基本的な心構えを学び、またこれから共に歩く仲間である寮生同士での話し合いを通して、あらためて布教に出発する決意を固めます。

ぢばの理を頂き、その理をしっかりと胸に治めた寮生は、決意も新たに、その足でそれぞれの布教地へと向かいます。



2 布教の家の一日

布教の家の一日は、朝の神殿掃除から始まります。朝づとめ前の早朝から起床し、全員で神殿や教務支庁の清掃ひのきしんをします。

朝食はパンのミミだけの日もあります。これが一日の活力源です。朝食を終え、定刻になると、にをいがけに出発です。

ほとんどの寮生にとって、そこは見知らぬ土地です。しかし地図を片手に戸別訪問に回るうちに、1週間もすれば、おぼろげながら地理もつかみ、1カ月もすれば、布教のやり方が自然と身に付いてきます。

午後4時ごろ、足を棒にして帰寮。神殿掃除などひのきしんを終えると、当番の寮生が心を込めて腕をふるった楽しい夕食です（昼食抜きで、朝夕は寮生の自炊）。

夕づとめ後、その日の出来事を仲間と共に語り合い励まし合って、明日への活力を養います。

その他の日課としては、全員そろってのお願いづとめや神名流し、駅前の清掃ひのきしんなども行います。また、毎月定例日には、教区の担当の先生や布教の家ＯＢと共に寮祭をつとめます。



▶子供たちとカルタ大会（こども会）

さあ！ 布教の家へ

3 布教経験豊かな育成員の指導

入寮後、必死に戸別訪問に回っても断られてばかり。おさづけの取り次ぎはおろか、お話すら聞いていただけない。そんな日が続くと、どうすればよいのか分からなくなり、次第に落ち込む日も出てきます。そのようなとき、寮生の後押しをしてくださるのが、寮長はじめ育成員の先生方です。

布教の家では、その地で長年布教にいそしんだ経験豊かな方々が、寮長・育成員・本部派遣委員として寮生を常時指導してくださいます（本部派遣委員は一部の教区のみ）。寮生を叱咤激励し、時には寮生と共に歩き、身をもって布教師としての在り方を示してくださいます。

「初めの3カ月が大切。とにかく歩くこと。戸別訪問以外に道はない」

との先生の言葉を受け、最初の3カ月、寮生はがむしゃらに歩き回ります。すると不思議にも、一軒、また一軒とお話を聞いてくださる所ができてくるのです。

このころになると、深夜の神殿で十二下りのお願いづとめをしたり、断食をしたりと、それぞれで心定めや理づくりをする寮生も出てきます。こうした動きが仲間同士の良い刺激となり、布教の家は、たすけ一条に邁進する布教師の拠点にふさわしい雰囲気へと変わり、まさにおたすけの現場となっていくのです。

4 団参を通して さらなる感謝と自覚

寮生は原則として、入寮中の1年間は、別席者やおぢば帰りをしてくださる方をお与えいただかない限り、おぢば帰りはできません。大教会や所属教会への参拝、各種行事への参加も同様です。まさに布教一筋の日々です。それ故に、一人の方をお連れする苦労、それが成ったときの喜びを味わうのです。

また、個々に人をお連れして帰参するほか、寮で団参を計画することもあります。個人の帰参と違って、団参は事前に期日や内容を決め、寮生全員で役割分担し、帰参人数を心定めして、お誘いに回ります。一日中にをいがけやお誘いに奔走し、帰寮してからも、寮生たちは「どうすれば帰参者の方々に喜んでいただける団参にできるか」と、時には夜遅くまで話し合いを重ねます。そうして寮生たちは互いの絆を深め、力を合わせることの大切さや勇ませ合う喜びを実感していきます。

またこうした団参は、生活の慣れからくる気の緩みや不安を吹き飛ばす、この上ない刺激となって、大きな喜びと感謝、やればできるのだという自信につながります。同時に、おぢばに人をお連れすることが自分の使命なのだという自覚も出てくるのです。



▲喜びの「こどもおぢばがえり」団参

さあ！ 布教の家へ

5 おぢばを目指し さらなる成人を

夏も終わりを告げるころ、いよいよ本格的なにをいがけ・おたすけに入っていきます。通い先へおさづけを取り次ぎに向かう人、とにかくおぢばへ帰っていただこうとお誘いに回る人、それぞれが自分のにをいがけスタイルを身に付けていきます。

帰参者をお連れしておぢばに帰ってきた寮生は、帰参報告のため布教一課を訪れます。その寮生の顔には、すがすがしさの中にも布教師としての精悍さが表れ、入寮時との違いがはっきりと見てとれます。

寮生の活躍は、各寮から毎週布教一課へ送られてくる「週間報告」からも分かります。報告には寮の現況やおさづけの取り次ぎ回数などが記されており、それは『布教の家週報録』として編集され、毎月、寮生・保護者・各寮担当者などに配布されます。

ほかにも、寮生からは「おぢばへのお願い」も送られてきます。所定の用紙に、寮生がおたすけにかかっている人の名前やお願いの内容などが記入されています。これをもとに、布教一課長が各地の寮生に代わり、ぢば・かんろだいにお願い申し上げています。

また9月には、おぢばで「寮生保護者会」が行われます。寮長はじめ育成員の先生方と寮生の保護者が、寮生の現状や、保護者の陰の理づくりの大切さについて話し合い、寮生のみならず保護者も共に苦労しようと誓い合います。

6 布教の家を土台に新たな布教活動へ

寮生に休みはありません。10月には「秋季大祭」、年明けには「お節会」。また各寮で期に応じて自主的に団参を組みます。そのほかにも「陽気ぐらし講座」などを独自で計画する寮もあります。心定めの人数達成に向け、常に目標を持って街中を東奔西走するのです。

そうしたにをいがけ・おたすけの中に身を置くうちに、長いと思われた1年も、あっという間に過ぎていきます。

3月の卒寮時には、布教の家の最後の行事として、おぢばに全寮生が集まって「卒寮の集い」が行われます。この集いにおいて、布教の家での尊い1年を土台として「新たな布教活動に邁進しよう」と、新たな門出を誓い合います。

実際に、卒寮後もそのまま単独布教師として現地に残る人が毎年います。そのほか、自教会などを拠点として布教に歩く人も多数います。卒寮はゴールではありません。それぞれが生涯一布教師としての新たな一歩を踏み出すスタートなのです。

布教の家での生活は、わずか1年間です。しかし、布教実践の中に身を置くその1年間で本当に多くのことを学びます。親の思い。日々頂く御守護。先人の苦労。自らのいんねん。この1年間で培ったことはお道を通っていく上での生涯の宝となるでしょう。

布教を志す人は、奮って布教の家へお越しください。またそのような人を、ぜひ送り出してください。教人であれば、年齢や性別は問いません。一人でも多くの方の入寮を心よりお待ちしております。

布教の家寮生　生活規則

寮生活は、常に教祖の道具衆たる自覚の上に、あらゆる苦労を乗り越えて、ようぼくの生命であり至上の使命であるにをいがけ・おたすけに勇んで励む毎日であらねばならない。

一、教区長および寮長の指示に従う。
一、布教の家の一日は朝づとめ（朝のお掃除）から始まる。定めの時刻には起床。夕づとめも、おたすけ先の都合以外、必ずつとめる。
一、寮祭などを除き、毎日晴雨にかかわらず布教に尽くす。
一、服装は、布教師にふさわしく清潔で礼儀正しい姿を心がける。
一、朝づとめ前、夕づとめ後のひのきしんは、勇んでさせていただく。
一、おぢば帰りおよび上級教会や所属教会への参拝は、参拝者、別席者、修養科生を連れてのみ行えるものとする。原則としてそれ以外の事由では布教地を離れることなく、布教に専心する。
一、生活費は一人月六、〇〇〇円とする。
一、食事は原則として朝夕の二回とし、自炊する。
一、毎週、所定の様式により週間状況を布教一課へ報告する。
※右記の規則を守らない場合は、退寮を命ずることもある。

北海道寮

男子５名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

日本最北端に位置するここ北海道。ご承知の通りおぢばから一番離れた所にあります。

しかしながら幾多の先人は、「挑戦と開拓者魂」を胸に「教祖のひながたの万分の一なりとたどらせていただきたい！」と、御存命の教祖を信じもたれ切って津軽海峡を渡ったのであります。

極寒の未開拓地での気候風土の違いと生活環境に慣れてゆくのは至難の業であります。

かつて明治・大正・昭和の時代には、およそ100系統を超える大教会から布教師が派遣され、道内各地に布教線が広がり、苦労の理が身を結び実に一千カ所に迫る名称の理が許され、さらに海を渡り旧領土樺太の地まで布教線が伸び広がっていったのであります。

布教の家の目指す目的は、どんな時代であってもあらゆる困難を乗り越えて「自分の心に道をつけること」「生涯おたすけ人」「卒寮後一人になっても歩ける布教師」を育成・丹精する現場です。

そのためには「勇気と根気」「勇気と自信」が不可欠です。しかし最初から勇気も自信もある人など誰もいません。「布教にはコツはありません」「コツコツと続ける事がコツです」「弱い己の心との闘いです」「たえず自分の心を磨き続けること」が大切です。「笑われそしられてもブレない自分造り」すなわち「信仰の土台造り」「基礎工事」の現場が布教の家です。

「チャレンジ&フロンティアスピリット」がたくさん伏せ込まれた北海道の地で、経験豊富な布教の家北海道寮のスタッフと共に道を求めて歩んでみませんか？

青森寮

男子5名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

「青森は布教がしやすい。戸別訪問をしても、むげに断られることはめったにない」と、これはある卒寮者の言葉です。

寮生のお世話取りには寮長以下約20名の育成員があたりますが、女性の育成員を増員し、教祖をより身近に感じることができる布教師を目指しサポートします。

青森の言葉、生活習慣、気候、風土などに早く順応できるように勉強会を実施、また教理やおてふりの勉強会の時間を設け、親神様、教祖に働いてもらえる信仰姿勢を身につけます。

さらに、各支部に置かれている運営委員が担当し、年に数回、泊りがけまたは日帰りで出張布教を実施します。他支部の布教師やようぼくと共に布教に歩き、互いに刺激し合い勇ませ合う充実した時間となっています。

陸奥湾、八甲田の山々をはじめ風光明媚で人情味豊かな青森ですが、冬の寒さ雪深さを考えれば、決して布教がしやすいとは言えません。しかし、寒さ厳しいほど、雪が降るほど、厳寒の中ご苦労くだされた教祖を偲ばせていただくことができるのです。しかも、おぢばから遠い青森からは、なかなかおぢば帰りができません。だからこそ、親神様、教祖に働いてもらうしかないと気づきます。おぢばに帰りたいけど帰れない。このおぢば恋しい思いを味わってこそ、教祖をより身近に感じることができるのではないでしょうか。

さあ、あなたもこの青森の地で、教祖のお供をさせていただきませんか。

東京寮

男子10名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

布教の家東京寮は、「たすけ一条」の心を胸に、東京都内を舞台として、にをいがけ・おたすけを実践しながら信仰を深める修養の場です。世界有数の大都市・東京には、多くの人々との出会いがあります。その一人ひとりとのご縁を大切にし、教祖の親心を伝えるため、毎日にをいがけやひのきしん、おたすけ活動に取り組んでいます。

寮生活では、仲間と寝食を共にしながら、朝夕のおつとめや教話、教理の学び、そして「歩こう、汗をかこう、恥をかこう」を合言葉に、布教実践を積み重ねます。喜びや悩みを分かち合い、共に励まし合う中で、信仰者として、また布教師として大きく成長することができます。

布教は決して特別な人だけができるものではありません。人と話すことが苦手な方も、経験のない方も、御存命の教祖のお働きを信じて、一歩を踏み出すところから始まります。東京寮には、親身になって寄り添う寮長・育成員がおり、一人ひとりの歩みを大切に丹精します。

「教祖のひながたを身近に感じながら布教を学びたい」
「人をたすける喜びを味わいたい」
「信仰を自分のものにしたい」
そのような願いをお持ちの皆さんを、東京寮は心より歓迎します。

教祖のお供をさせていただく尊い御用に、東京の地で共に汗を流し、笑顔で布教に励みましょう。

あなたの勇気ある一歩が、新しいご縁と、新しい人生の喜びにつながります。

皆様のご入寮を心よりお待ちしております。

埼玉寮

男子６名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

埼玉寮は、卒寮後も教会の後継者または各々の立場においても「布教は一生、一生は布教」「成っても一つの理、成らいでも一つの理」を心の指針として「生涯布教師」を目指すことを目標とできる人材を育成する場であります。

そして寮生活においては、おたすけ人の精神「教祖のひながた」通りに常に感謝の心を忘れることなく、どんな時でも「喜び」と寮生同士が「たすけ心」を以って一手一つにつとめられる一年になるように指導しています。

布教方針としては、

一、「いんねんの自覚」と「ようぼくの使命」について日々のにをいがけ・おたすけを通して、しっかり練り合い、考える。

二、丁寧なおさづけの取り次ぎと、初参拝者の御守護を目標とする。

日々は教区長、寮長を中心に随時信仰相談に応じています。また現在布教第一線で頑張っている先輩育成員が月に数回当直して布教する上での悩みを聞き抜き、共々に切磋琢磨して布教意欲を高めています。

生涯布教のできる、またおたすけできるおたすけ人を目指している若者諸君、ぜひ埼玉寮へ！

令和六年度に新寮舎となりました。

おたすけの喜びを埼玉から世界へ！

千葉寮

女子8名

▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます



千葉寮は昭和63年に「千葉管内に布教の渦を巻き起こそう」との理念で、関東初の女性寮として開設されました。「布教の渦を巻き起こす」とは、寮生のひたむきな布教活動の姿を地域の教友にも映し、布教意欲を高めるという思いです。

単に一年間の布教体験、実績を積む場所ではなく、布教の家設立の主旨に沿い、常におぢばを心に置き、御存命の教祖のお働きを戴いてにをいがけ・おたすけに歩く。またにをいがけ・おたすけを通して親神様の御守護、御存命の教祖の親心を体感し、見せられることに自らのいんねんを自覚しながら確固たる信仰信念を培い、卒寮後にどのような立場になっても一布教師として通れるように育てる。これが千葉寮の基本方針です。

現在千葉寮では、それぞれ違った経緯で入寮した寮生が、お互いに布教師としての意識を忘れずに持ちながら、寮での共同生活、外での布教活動ができる環境を目指しています。そのために、寮長他育成員として、布教の家ＯＢまたＯＧを多数そろえ、一年を通してそれぞれに応じた現場での布教の指導を行い、またねりあいや修練によってさらに一歩前に成人できるよう、寮生を自分が送り出した単独布教師のように親心をかけ、丹精を続けています。

やはり千葉を布教地に選んだのは教祖のお導きだった、そう思える一年を通ってみませんか。

愛知寮

男子12名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

愛知寮は、昭和26年に全国で一番最初に開設された布教の家です。その歴史と伝統を大切に引き継いで来ましたが、三代真柱様が愛知寮にお入り込みくださった時に賜った「教祖のお供をして日々コツコツ歩き回り、愛知から世界へ布教の渦を巻き起こそう。」とのお言葉を忘れることなく歩き続け、本年で76年目を迎え、卒寮生1千144人の布教師が巣立って行きました。

現在、愛知寮は寮長、副寮長、育成員、カウンセラー合わせて11名の体制で指導にあたっています。布教経験豊富な布教の家卒寮生たちが、定期的な、にをいがけ、ねりあいを積極的に行い、おたすけ相談、寮生活の相談などをしっかり受け止め、寮生が勇んで教祖のお供をして歩き続けられるように、サポート体制を整えています。

また、布教経験豊富な外部講師を招き、体験談、談じ合い、教理勉強会など、学ぶ機会にも恵まれています。

にをいがけにルールはありません！

ただ教祖を信じ、教祖のお供をし、「教祖、私といんねんある方はこの方ですか?」と唱え続けながら歩くところに、必ず教祖が、おたすけ先を与えてくださいます。

道の後継者育成が急務の中、愛知寮がその一助となりますよう、育成スタッフ一同しっかりと次代につなげていきたいと存じます。

布教を志すようぼくの皆様。この年はたすけの旬！　たすかる旬！ぜひ布教師の一歩を踏み出してください。入寮を心よりお待ちしています。

石川寮

男子6名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

石川寮では「一人一人の自立と成人」を目指した指導を中心に、親神様、教祖と自分の直結した信仰心を養い育ててもらえるよう、丹精の上に取り組んでいます。「苦労は喜びの種」と布教道中の体験の中から見えてくる気づきや学びと、大きな喜びや感動、そしておたすけを通して自ら磨かれていく心の成人を感得してもらうべく、経験豊富な育成員一同が、真実を持って寮生をサポートしています。

単独布教より教会を設立し、現在も現役布教師としてご活躍されている本部派遣委員によるお仕込みと、各個別面談も毎月別の日に行うことによって、より細やかな指導体制も整えています。

さらには、国内はもちろんですが、海外布教にも力を入れていらっしゃる先生は、現役の単独布教師をはじめ、卒寮後も純粋に布教を志し、石川の地で布教に専従しているOBも真実を持って育成に携わり、お世話させていただいています。

また、教区管内の主事先生、諸先生方にも全面的にご関与、ご協力を頂き、石川教区挙げての万全な受け入れで寮生をお待ちしています。

この石川寮で、教祖のご苦労を見つめながら、ひながたの道をたどり、地道に真剣に歩む日々は、きっと生涯に亘ってのかけがえのない信念と自信という宝となることでしょう。布教を通し、自らを磨き成長する生き甲斐と信仰の喜びを共に分かち合える日を楽しみに、熱意ある皆様の入寮を心よりお待ちしています。

大阪寮

男子8名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

大阪寮は、平成元年4月、教務支庁内の旧「天理助産所」の建物を改装して創設されました。先人たちの輝かしい単独布教の足跡と熱い思いが込められ、人間誕生の場所が、布教師を生み出す所に生まれ変わり開設されたのです。

平成12年には現在の新しい寮舎が落成し、これまで300名を超える布教師を送り出しました。おぢばに近いという大阪寮の地の利を活かし、にをいがけさせていただいた人々をおぢばにお連れする機会は数多く与えていただけます。

大阪寮では、寮長含め15名の育成委員が寮生の指導に当たり、いつでも身近に、寮生からいろいろな相談に乗れる態勢を整えています。また、単なる1年間の布教経験に終わることなく、生涯求道者たる信念の育成を目指しています。卒寮後に残る単独布教中の先輩たちも多く、そんな先輩たちからの話も良い刺激になります。

さらに、専修科の夏季布教実修や、一日入寮の有志による布教実習の受け入れなど、布教を志す若人たちとの交流も盛んに行い、お互いに素晴らしい刺激を与え合う機会としています。

大阪寮は万全の受け入れ態勢で、皆様のお越しをお待ちしています。

和歌山寮

男子４名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

和歌山は、おぢばに近く、早くから布教が盛んに展開され、現在3カ所の大教会と、約400カ所の分教会が点在している、紀州徳川家が治めた和歌山城の城下町です。気候は温暖で、人情は穏やかなこともあり、県民はお道への理解が高く、布教しやすい土地柄です。

和歌山寮は現在、10名ほどの熱心な育成員によって、一年間の布教と寮生活の両面でサポートします。寮生の自主性を重んじ、寮生さんの案でイベントや団参を企画していきます。寮生には、一人ずつ担当者を付け、相談窓口として、一緒に考え、導き、時には行動を共にします。寮の生活環境は充実していて、疲れた身体を癒すことができます。

また、教区内の熱心な布教師の集まりである「わだちの会」に、月2回参加し、布教やねりあいを通して刺激をもらっています。

卒寮した後も、にをいの掛かった方をそのままにしないことも卒寮後の大切な角目であることを思う時、何と言ってもありがたいのは、おぢばから近く、修理や丹精を継続しやすい、という地域性ではないかと思います。事実、卒寮後も現地を訪れるOBは数多く、中には教会設立を目指して、布教に専念している布教師もおります。

お道に熱意を持っておられる方はもちろん、苦手意識があって、一歩が踏み出せない方や、初心者でも大歓迎です。

立派な布教師に育ってくだされれば言うことありませんが、それよりも、温かく優しいお道の人であれば、と思ってお世話取りさせていただきます。

兵庫寮

女子9名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

兵庫寮は、教祖70年祭前の昭和29年に開設され、同31年より女子寮として現在に至っています。以来、布教の家を巣立った者の中から教会を設立して教会長になっている人や各地で活躍している教会長夫人が多くいます。

寮生は3月30日に入寮して以来、「御存命の教祖のお供」を合言葉に、ただただひたすらに歩きます。まずは種まきに重点をおき件数を定めての戸別訪問に専念、7月末～8月にかけての「こどもおぢばがえり団参」、また後半には、マイクロバスでの毎月の別席団参に取り組みます。

寮生に対する毎月の丹精は教区長夫妻による講話や女鳴り物の練習をはじめ、寮長・育成員とのねりあいを適宜行い、また際立って布教の活発な教会へ出向いての熱ある実修とねりあいで寮生の布教意欲は高まります。

さらには寮長と副寮長、育成員による布教実修を状況に応じて実施し、きめ細やかな相談と育成に当たっています。

1年間兵庫寮で学び、神戸の街を布教する日々が、毎年大きな成果をお見せいただくこともさることながら、汗と涙を流してこの坂道を上り下りすることにより、それぞれが生涯お道を歩む上の礎を築かれることを確信いたします。

岡山寮

男子6名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

岡山寮のスローガンは「布教は夢とロマン」です。

たった一言のにをいがけで人生が変わります。昨日まで、身上や事情で絶望していた人が、親なる神様とそのご恩を知り、人だすけに目覚め、おたすけ人へと成人していくのです。

そんな夢とロマンに向かって、ひたすら心を低くして戸別訪問を続けていく。その中で機を逃さずおさづけの理を取り次ぐ。そして御存命の教祖がお待ちくださるおぢばへとお連れする。布教を一から始め、何もないところから、さまざまな御守護をお見せいただけるのが、布教の家の一年間です。

たすけ一条の喜びを実感することこそが、にをいがけを継続していく大きな原動力となります。

しかし、布教の毎日には勇めない日もあります。時には「どうして?」と思うような理不尽なことも起こってきます。そこを寮生同士が励まし合い、あきらめることなく、神様の思召を探し求めていく。布教に欠かせない「勇気」と「根気」が自ずと培われていきます。

育成にあたる係員は、二十数年の布教を経てこの令和の時代に教会を設立した人、また仕事に就きながら布教に励む人など幅広く、あらゆる相談に対応します。

寮生・OB・スタッフ、熱い思いを高め合い、山あり谷ありの布教の日々を心から楽しみ、夢とロマンに溢れる布教師となりましょう!

広島寮

男子６名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

布教の家広島寮は、昭和28年に設立されました。その成り立ちは、今から八十数年前、人類史上初めて広島に原爆が投下され、広島の街は焼け野原になりました。「今後75年間は草木も生えぬ」と言われた混沌とした世上の中、早くも道の布教師たちは、橋の下などをねぐらにして、人だすけに奔走していました。そうした状況を目の当たりにした教区内の方々から「せめて布教師たちに夜露をしのげる場所を」との声があがり、布教の家広島寮は誕生しました。

そんな布教師たちの熱い思いは代々の寮生に受け継がれ、今日、設立から70年以上を経て、歴代の卒寮生は300名を越えます。

広島寮では、「とにかく歩く」を合言葉に、親神様、教祖がお導きくださる方々とのご縁を求めて、ひたすらにをいがけに歩きます。

育成体制としては、月に一度、教区長はじめ主事、支部長方等より布教の糧となる講話を頂きます。また、寮長や育成員とも随時ねりあいを重ね、きめ細やかな丹精を心掛けています。その他、各支部へも足を運び、教区内の有志の方々と共にをいがけ活動を行い、県内各地へ神名を流す実修も行っています。

教祖の道具衆として、お喜びいただける布教師を目指し、共にひながたの道をたどらせていただきましょう。

皆様の入寮を心よりお待ちしています。

愛媛寮

女子6名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

「布教の経験がないから不安…」そんな心配は一切要りません！　愛媛寮の最大の魅力は、家族のように温かく、個人のペースに寄り添うアットホームな環境です。新しく入るあなたを、教区長や寮長をはじめ育成委員の先生方が全員で、親身になってサポートします。

活動の舞台は、夏目漱石の小説『坊ちゃん』や道後温泉で有名な四国松山の地。毎朝、国内外の観光客が行き交う活気ある温泉周辺で神名流しやゴミ拾いを行い、日中は穏やかで信仰に寛容な地域の方々へ戸別訪問に歩みます。一歩一歩、地域の人々と心を通わせる中で、自然と「おたすけの心」が育まれていきます。

愛媛寮は昭和46年の開設以来、50年以上の歴史の中で150人余りの卒寮者を送り出してきました。その確かな実績があるからこそ、指導体制は万全です。のびのびとした愛媛の風土に包まれながら、着実に布教力を身に付けることができます。

日々の実践を通して信仰心を養い、おたすけのできるようぼくへと成人させていただく一年間。あなたの「変わりたい」「お役に立ちたい」という気持ちに、私たちはどこまでも寄り添います。新しい自分に出会う布教人生の第一歩を、この温かい愛媛の地で一緒に踏み出してみませんか？　あなたとの出会いを、心からお待ちしています！

福岡寮

男子６名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

福岡寮は、昭和58年開設された九州唯一の布教の家です。

寮長・副寮長、布教熱心な教会長、布教の家ＯＢの布教師で構成された育成員、総勢15名で、サポート体制を整えています。さらに教区の皆様が心をかけてくださっています。

寮生の一日は、神殿掃除に始まり、その後、庁舎内の清掃、朝づとめ。８時40分から出発式でお願いづとめ、おかきさげの拝読。そして、庁舎前の「黒門」バス停にて、よろづよ八首のてをどり、元の理の拝読、路傍講演を行います。そして勇み立つ心で、それぞれの目的地に向かいます。昼食抜きで終日にをいがけに歩き、帰寮後は神名流しに歩き、夕づとめに続いてその日の反省会をして一日を終えます。

寮祭は、先輩寮生がにをいをかけた人、所属教会が遠方にある方々が参拝され、毎月20名以上でにぎやかに勤めます。おつとめ後、祭主を務めた寮生の感話と育成員の講話があり、反省会にて、１カ月の足跡を振り返り、今後の進め方について練り合います。

福岡寮はおぢばから遠く離れておりますが、一年間毎月初席者の御守護を頂戴しおぢばに帰った先輩寮生や、この地で布教への情熱を育み、にをいがけ・おたすけに励む布教師を多く輩出しています。

「御存命の教祖のお供」を合言葉に、この福岡の地で辛抱強くコツコツと布教に歩き、教祖にお喜びいただける「布教師」となろうではありませんか！

布教の家所在地一覧

寮　名	設置年	所　在　地	電話番号
北海道	昭和49年	〒064－0808 札幌市中央区南八条西11丁目１番１号	011－561－1148
青　森	平成４年	〒038－0014 青森市西滝２丁目12番１号	017－781－0050
東　京	昭和28年	〒170－0003 豊島区駒込７丁目１番４号	03－3917－0247
埼　玉	昭和59年	〒331－0814 さいたま市北区東大成町１丁目654番地	048－663－0444
愛　知	昭和26年	〒466－0064 名古屋市昭和区鶴舞３丁目15番18号	052－741－6363
石　川	昭和61年	〒920－0867 金沢市長土塀１丁目18番22号	076－222－0720
大　阪	平成元年	〒543－0036 大阪市天王寺区小宮町９番18号	06－6771－0012
和歌山	平成６年	〒640－8137 和歌山市吹上３丁目２番46号	073－436－4445
岡　山	平成７年	〒700－0807 岡山市北区南方１丁目１番23号	086－222－5881
広　島	昭和28年	〒730－0004 広島市中区東白島町12番11号	082－221－1144
徳　島	昭和60年	〒770－0908 徳島市眉山町大滝山８番地	088－654－3877
福　岡	昭和58年	〒810－0062 福岡市中央区荒戸３丁目１番９号	092－741－3857
千　葉	昭和63年	〒263－0033 千葉市稲毛区稲丘町５番15号	043－241－3191
兵　庫	昭和29年	〒657－0804 神戸市灘区城の下通２丁目８番１号	078－861－3392
愛　媛	昭和46年	〒790－0852 松山市石手５丁目８番27号	089－921－7372

※布教の家はすべて教務支庁の敷地内に設置されています。

立教190年度 布教の家　入寮要項

●期　間

3月29日「入寮研修会」から、翌年3月末開催予定「卒寮の集い」まで

●資　格

①所属教会長ならびに直属教会長から推薦された天理教教人

▽出願時点で教人になっていなくとも出願はできますが、3月29日の「入寮研修会」までに教人登録または登録の手続きが完了していない場合は、入寮できません。

②年齢は問わない。ただし、毎日布教に歩くことが可能であること

▽おぢばの修養科とは異なります。「布教の家へ入って身上の御守護を頂こう」というような理由での入寮はご遠慮ください。

③配偶者の有無は問わないが、単身での入寮に限る

㊟原則として、一カ所の布教の家には一直属から一人のみ入寮可とします。

●携 行 品

寝具、おつとめ衣、ハッピの帯（男子）、衣類、洗面具、筆記具、雨具、そのほか各自が日常で使用しているもの

●貸 与 品

ハッピ（寮名入り）、名札

●諸 注 意

①寮費（生活費）は月6千円とし、自炊する。寮費は、毎月26日までに、翌々月分を保護者が布教一課に納入すること

▽4月分と5月分は、入寮研修会の受付にて本人に納めていただきます。

▽一括納入も可能です。

②寮生は1年間、にをいがけ・おたすけに専念し、帰参者・別席者・修養科生を連れてのおぢば帰りおよび上級教会・所属教会参拝以外は、原則として布教地を離れぬこと。教会の祭典・行事、私事についても原則として認めない

③中途入寮は認めない

●願　　書

①入寮願書　　1通（所定用紙）
②経歴書　　1通（所定用紙）
③健康調査票　1通（所定用紙）
④小論文「入寮の動機および心構え」
▽200字詰め原稿用紙4～5枚程度。市販の用紙も可。
⑤写真2枚
▽半年以内に撮影したもの（免許証用のサイズ）。
▽布教中に携帯する身分証に使用しますので、身だしなみを整えて撮影した写真を用意してください。
▽2枚のうち1枚は経歴書に貼付してください。
※願書は布教一課へ取りにお越しください（配布は11月25日から）。また布教の家がある教区（教務支庁）でも配布しています。
※希望の寮は居住している教区の寮でも構いません。

●願書受付

1月25日午前9時から2月25日午後1時まで。布教一課へご持参ください。
※郵送での提出はできません。
※各寮（教務支庁）では受付できません。

●入寮者決定

2月末に面接のうえ決定し、3月中旬ごろに本人・保護者・所属教会長へ通知します。
※面接は保護者同伴で行います。
※希望の寮が定員を超える場合は、原則として先着順で入寮者を決定します。

●入寮研修会

入寮許可者に対し、3月29日～30日の2日間で、おぢばにて「入寮研修会」を開催し、終了後そのまま布教地へ出発します。
※各寮までの旅費と、4月分・5月分の寮費を、当日持参していただきます。

◇詳細は左記へお問い合わせください。

天理教布教部 布教一課
おやさとやかた南右第二棟2階
TEL 0743-63-2243



●編集・発行
布教部布教一課
TEL 0743－63－2243
●発行日
立教189年 9 月26日

▼「布教の家」ホームページ

■願書配布

11月25日　開始

■願書受付

1月25日～2月25日

午前9時　　午後1時